
自転車日記

遠海夜宵

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

自転車日記

【Nコード】

N2344Y

【作者名】

遠海夜宵

【あらすじ】

以前、違うサイトに「かなる」として投稿していたものです。

不思議な自転車を操る女子高生のある日の日記。

自転車に乗るのが好きだ。

たまには、空を飛んでみたりする。

飛ぶことを覚えたのが、いつの頃からだったかは定かではない。

いつのまにか、飛んでいた。

10月24日水曜日 晴れ

今日も、思いっきり飛びたくなくて、夜の来るのを必死で待った。

この街は、昼間だと車や人が混み過ぎていて、離陸しにくいし、目立ちすぎていけない。

P・M11:00を確かめると、鏡に向かう。

一応、どこで誰に遭うかわからないし、メイクだけはしておかなくちゃ。

女子高生の基本よね。

さてと、用意ができて、いよいよ出発！

今日はどこへ行くところかなあ。

少し道を走らせて、人通りの無いのをしっかりと確かめたら、
いよいよ離陸だ。

さあつて時に、暗闇の向こうから、気味悪く軋む音が近づいてきた。

誰かがこっちに来る。

私は目が良い方だから、暗闇の中でも50メートル程先に、
そいつらを認める事ができた。

何という醜い自転車。そして何という醜い人間。

最悪。こんな素敵な私の夜に……。

垢で汚れたその顔は、薄暗い電灯の下で気味悪くニヤついていた。

少々ビビッタが、なあに。私にはこの自転車があるさ。

しっかし、くせえなあ。すれ違うまで、息、止めるところか。

なのに、そのすえた臭いは私の真ん前で動かなくなっちゃま
ったんだ！！

男のどす黒い顔に、気味悪く光る目が、私を覗き込んだ。

「あんた、飛べるんだろ？俺、見たんだよ。あんたが、お

とといの晩、飛ぶとこをよお。」

男は、汚い唾を飛ばしながら、言った。

「ほら。これ探してきたしよ。頼むよ。俺にも教えてくれよ。俺も飛んでみてえんだよ。」

男はそう言うと、例の醜い自転車のハンドルを擦った。

1キロ先からトラックが来る。

私にはそれがわかった。

そして、男にこう言ってやった。

「この道路の反対車線まで渡る。そこから、勢いをつけてあの信号に向かって、斜めに」

自転車を走らせる。その時「飛翔」と3回唱えて、ハンドルを引く。気をつける事は、

けっして、ブレーキをかけない事。今やるから、後からついてやってみな。」

私はすぐに、その通りにやり、離陸した。

私がゆっくりと、点滅信号の上まで来たとき、

トラックは「飛翔」と叫ぶ男をはねた。

確かに、男は空を飛んだ。

終焉

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2344y/>

自転車日記

2011年11月5日04時10分発行